Okayama EU Letter











岡山EU協会 2022年度理事会・総会

岡山 EU 協会2022年度理事会・総会が、6月10日(金)に ANA クラウンプラザホテル岡山で開かれ、2021年度事業報告並びに収支計算書、2022年度事業計画並びに収支予算書案などを審議し原案通り承認した。

総会では宮長雅人会長が「ロシアのウクライナ侵攻以降、EU内でも様々な問題が表面化しており、安全保障面やエネルギー問題などはEUの中でも意見対立があるようである。ただEU全体で4億人以上が住む一大経済圏であり、学ぶことは多い。特にカーボンニュートラルへの取り組みなどは先進的であり、我々も参考にしたい」とあいさつした。

役員改選では、出身母体の人事異動などに伴う交代会員4人が紹介され、拍手で承認された。任期は前任者の残任期間を引き継ぐ。

総会後、法政大学の陣内秀信特任教授による「甦るイタリアの港町の輝きとこれからの瀬戸内観光の展望」と題した記念講演が行われ、講演後には3年ぶりに懇親会も開催された。着座形式ではあったが、会員相互の親睦を図った。

(第1号議案) **2021年度 事業報告**

1. 欧州の経済・文化を深く知るため 「EU 講座」を開催

2021年度岡山 EU 協会理事会・総会を7月30日岡山プラザホテルで開催した。本来は6月に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い7月に延期した。

理事会・総会では前年度事業報告、収支計算書報告、役員の 選任についての承認、2021年度事業計画、収支予算書の報告が 行われた。また、昨年度は活動ができていないことを踏まえ、 今年度は会費を集金しないことを決定した。

総会の後、特別講演として岡山フィルハーモニック管弦楽団 首席コンサートマスターの高畑壮平氏をお迎えし、演奏曲のエ ピソードを交えた演奏会を開催した。

EU 講座開催については、10月29日に第26回と3月30日に第27回を開催した。

第26回 EU 講座では講師に日独産業協会特別顧問隅田貫氏をお迎えし「ドイツで長く働いてみて」をテーマにお話しいただき、第27回 EU 講座では、全日本空輸㈱取締役執行役員宮川純一郎氏をお迎えし、「2022年の日欧航空事情―パンデミックを超え、『こころの翼』で世界をつなぐ―」をテーマに講演して

いただいた。

毎年12月に毎年行われる EU 本部での総会はコロナ感染防止 対策として本年度はオンラインでの開催となった。

2. 「EU Letter」の継続発行

年1回発行しており、10月に第13巻を発行した。7月30日開催の理事会・総会での決定事項、会合の様子などを紹介した。 松田正己会長の退任、宮長雅人新会長の就任等を写真入りで紹介した。

3. 岡山 EU 協会のホームページの充実

岡山EU協会内外への情報発信強化を目指し、会長あいさつ、協会会則などを常時掲載し、理事会・総会、EU講座の開催日のお知らせなどをイベントカレンダーとして掲載している。他のEU協会ともリンクを張り、それぞれの活動状況が分かるようにしている。

4. 会員の増強を図る

2021年4月は法人62人、個人51人でスタートした。途中、複数の入退会があり、2022年3月末は法人63人、個人49人となった。今後も入会の声掛けに努め、会員の増強を図る。

第2号議案 2021年度 収支計算書

 $(2021. 4.1 \sim 2022. 3.31)$

収支決算

収入総額 2,671,152円 支出総額 1,235,985円

差引残高 1,435,167円 (2022年度に繰越)

収入の部 (単位:円) 差引額 科 目 予算額 決算額 要 年会費収入 -65.000 ・継続会員は年会費集金なし 65.000 参加会費 750,000 -750,000雑 収 20 2 ・普通預金利息 入 18 2,671,132 前年度繰越金 2,671,132 3.486.150 2.671.152 合 計 -814,998支出の部 (単位:円) 予算額 決算額 差引額 摘 要 科 Ħ ・会場費(理事会・総会・講演会) 531.594 会 費 1,000,000 696,924 -303,076 ・講演料 他 165,330 EU講座等 ・第26回 EU 講座 58 408 1,200,000 388,684 -811,316 ・第27回 EU 講座 運 営 費 330,276 -46,318 ・会報発行 ・ホームページ維持管理 107689 広 報 費 160,000 113,682 5,993 19965 ・通信費 事務諸費 150,000 36,695 -113,305 ・消耗品費 10,449 ・その他雑費 6,281 予 費 50,000 備 -50,000合 計 2,560,000 1,235,985 -1,324,015

会計監查報告

2021年度の会計について監査を執行し、収入・支出ともに正確に記帳整理されており、帳簿・証拠書類の保管は完全であることを認める。

2022年5月10日



〔第3号議案〕

会 長	岡山経済同友会代表幹事	宮長 雅	人 (再任) 理	事	岡山経済同友会代表幹事	梶谷	俊介	(再任)
				理	事	岡山経済同友会常任幹事	古市	大藏	(再任)
副会長	駐日欧州連合代表部広報部長			理	事	岡山県中小企業団体中央会会長	晝田	眞三	(再任)
	ローランド	・ホネカン	プ(新任) 理	事	大学コンソーシアム岡山会長	平野	博之	(新任)
副会長	岡山大学学長	槇野 博	と (再任) 理	事	岡山県文化連盟会長	若林	昭吾	(再任)
副会長	岡山県国際経済交流協会会長	宮長 雅	(再任) 理	事	福武教育文化振興財団代表理事・	理事長		
副会長	岡山県経営者協会会長	野﨑 泰	多(再任)			松浦	俊明	(再任)
				理	事	岡山市長	大森	雅夫	(再任)
顧問	岡山県知事	伊原木隆	太 (再任) 理	事	倉敷市長	伊東	香織	(再任)
顧問	駐日欧州連合代表部大使 ハイツェ	・ジーメル	ス(新任) 理	事	山陽新聞社社長	松田	正己	(再任)
顧問	岡山ガス会長	岡﨑 🧦	杉(再任) 理	事	RSK ホールディングス社長	里見	俊樹	(新任)
				理	事	岡山放送社長	中静敬	女一郎	(再任)
理 事	岡山経済同友会顧問	松田 正	己(再任) 理	事	テレビせとうち社長	土井	雅人	(再任)
理 事	岡山経済同友会顧問	松田	人(再任)					
理 事	岡山経済同友会顧問	萩原 邦	章 (再任) 監	事	岡山県商工会連合会会長	田村	正敏	(再任)
理 事	岡山経済同友会顧問	中島 基	善 (再任) 監	事	岡山県商工会議所連合会専務理事	髙橋	邦彰	(再任)
理 事	岡山県経済団体連絡協議会座長	中島 基	ら (再任)					

- 1. 欧州の経済・文化を深く知るため「EU 講座」を複数回、 開催する
- 2. 会報「EU Letter」を継続発行する

- 3. 岡山 EU 協会のホームページの充実を図る
 - 4. 会員の増強を目指す
 - 5. EU との友好促進事業を実施・共催・後援する

2022年度 収支予算書 (案)

(2022. 4.1~2023. 3.31)

収入の部	(単位:円)

科 目	2021年度実績	2022年度予算	差引額	摘 要
年 会 費 収 入	-	1,570,000	1,570,000	・法人会費(2 法人増強)@20,000円×65 ・個人会員(5 個人増強)@ 5,000円×54
参加 会 費	-	750,000	750,000	・総会 ・EU 講座 (3回程度開催予定)
雑 収 入	20	18	-2	・普通預金利息
前年度繰越金	2,671,132	1,435,167	-1,235,965	
合 計	2,671,152	3,755,185	1,084,033	

支出の部 (単位:円)

	科 目		2021年度実績	2022年度予算	差引額	摘 要
総	会	費	696,924	1,000,000	303,076	
EU	講座等運営	費	388,684	1,200,000	811,316	・EU 講座(@400,000円×3回)等
広	報	費	113,682	160,000	46,318	・会報発行 150,000円 ・ホームページ維持管理 10,000円
事	務諸	費	36,695	150,000	113,305	・通信費 ・消耗品費 ・出張旅費 など
予	備	費	-	50,000	50,000	
次	年 度 繰 声	或	1,435,167	1,195,185	-239,982	
	合 計		2,671,152	3,755,185	1,084,033	

■講演要旨

「甦るイタリアの港町の輝きとこれからの瀬戸内観光の展望」

■法政大学特任教授・建築史家 陣内 秀信 氏



陣内秀信 氏 プロフィール

北九州市生。1971年東京大学工学部建築学科卒業。1973年から1975年にかけてイ タリア政府給費留学生としてヴェネツィア建築大学に留学、翌年にはユネスコのロー マ・センターに留学。 帰国後、1980年東京大学大学院工学系研究科博士課程単位取 得退学。1983年、東京大学工学博士。東京大学工学部助手、法政大学デザイン工学 部建築学科教授。

法政大学エコ地域デザイン研究センター長、法政大学江戸東京研究センター長な どを歴任し、2018年定年、特任教授となる。

特定非営利活動法人歴史建築保存再生研究所理事。イタリアを中心に、イスラム 圏を含む地中海世界の都市研究・調査を行う。また、ヴェネツィアとの比較から江戸・ 戦前の東京が水の都であったことなどを論じた『東京の空間人類学』でサントリー 学芸賞受賞。芸術・建築関連の雑誌での解説も多い。

はじめに

岡山県では、日本にアルベルゴ・ディフーゾ(イタ リア語で「分散したホテル」)をつくろうと力を入れ ておられることに高い関心を持っている。イタリアに アルベルゴ・ディフーゾができた背景は、70~80年代 に遡る。こうした形態を理解するにはイタリアの社会、 経済、文化、そして観光の在り方を抜きには考えられ ない。海外の取り組みを日本に導入し、定着させてい くためには、こうした背景をよく理解することが大切 で、本日はこうしたことにも触れながら、イタリアの 海辺都市と瀬戸内海観光についてお話する。

文化のアイデンティティで、地域を再構築

瀬戸内の魅力は、イタリアの海洋都市にも似てい る。実は、欧州の近代化が進む中、素晴らしい海洋都 市、あるいは港町がたくさんある南イタリアはその流 れから遅れを取った。ところが、20世紀終盤(1980年 代)から世界の価値観が変わり、その価値が再評価さ れた。哲学者の中村雄二郎氏によると、近代ヨーロッ パにつながる北型のデカルト的な知に対し、ナポリの ヴィーコに代表される南型の知と捉えることが出来る という。これが再評価され南イタリアを代表するナポ リでは、演劇空間のような中庭を誇るバロックの邸宅 や古代地下都市が整備され、観光客はタイムスリップ したような体験ができる。

その前の戦後の50年代、60年代の時期、日本と同様、 地中海世界でも産業化・工業化が進展し、海を汚し、 自然を失った。大規模工業開発が、ヴェネチアの本土 側や南イタリア(プーリア州、ナポリ周辺)でも進め られた。大衆的リゾート地の乱開発も行われた。とこ ろが、80年代に大きく方向転換した。これまでの開発 を反省し、海、太陽を活かすことで、新たなインダス トリー (経済活動) を生み出すことを進めた。南イタ リアには、自然、文化、建築・都市、歴史、神話・物 語、食文化がそもそもあり、土地に受け継がれた歴史 と環境の豊かな資産が再評価された。

これは、瀬戸内海の事情と重なるものがある。瀬戸 内は、国内外の他地域から訪ねる人には非常に魅力が ある。しかし、瀬戸内海沿岸・島でも他の地域同様、 工業開発が大規模に進められ、自然を失い、忘れ去ら れた。しかし、この20~10年、その魅力に皆が気づき 海をいかした付加価値のある産業・経済、文化 農業 が注目され、レモン、オリーブオイル、観光(しまな み海道、舟運復活、アート、瀬戸内芸術祭など)、海 と対話する建築など回復の余地は存分に受け継がれ た。資産は無尽蔵にあり、どう蘇らせるのかがポイン トだ。

瀬戸内地域の再構築として、文化のアイデンティ ティをつくりあげていかねばならない。今は、飛行機 や新幹線が交通手段となり、皆、自分の場所と最終目

的地のことのみしか考えなくなった。しかしかつては、 舟運を通して、都市間同士の重要な役割、機能、産業・ 経済基盤を持つ町が多く、ネットワークで繋がってい た。例えば、岡山県津山市と岡山市の西大寺地区は川 を通して交易があった。また、愛媛県大洲(おおず) 市でも、愛媛県肱(ひじ)川の舟運でつながっていた。 内子町(愛媛県喜多郡)では和ろうそくで栄え、いか だ流しという大洲の文化が根付いた。アイデンティ ティなので、まず地元の人が元気づくなど自信を取り 戻すことが大切だ。

荒廃していた南イタリアの海辺都市が甦る

近代化が目指したものと逆転の発想で時代から取り 残され、荒廃した歴史都市がよみがえった例として、 南イタリアのトラーニ(南伊プーリア州)という都市 の例がある。取り残される旧市街は、スラム化した。 一方、新市街地は光が当たり、華やかな様相だった。 しかし、20年前から逆転し、石造建築の素材をいかす デザインセンスで、海辺の旧市街が脚光を浴びるよう になった。この際、リノベーションが重要で、近代建 築を凌駕した。行政は、街路整備など歩行者空間化を 行った結果、人出でにぎわうようになった。

グローバリゼーションの影響を受け、米国のファストフード店がローマにも開業するいうニュースに対抗し、1986年には、スローフード運動(文明批評、個人のライフスタイルの革命)が登場し、1999年にはチッタ・スロー(本物のまちづくりと、都市の在り方を根本から問う)の考え方が生まれた。トラーニは01年、チッタ・スロー協会の認定を受ける。韓国には認定された都市があるが、日本にはまだない。産業も経済も、小規模なものが良いとされ、自然の恵みを生かす方向で社会と文化が変化した。

例を挙げると、トスカーナ、オルチャ渓谷は2004年に世界遺産に登録された。農村が疲弊して、過疎に悩んでいた。5つの小さな街が連携して世界遺産登録を実現した。流れは、同年に産業廃棄汚物処理場の建設候補地になり、住民の阻止への動きが起こる、「オルチャ渓谷芸術的自然公園」の設立、「オルチャ渓谷有限会社」の地域再生と続く。また、シラクーザ(シチリア)島の旧市街のオルティージャは、市民にとって象徴的な存在の島だ。古代からの歴史のあるところだったが、近代に荒廃し、怖く近づけない場所になった。ところが、15年前から見違えるように再生された。歴史のロマンがある懐かしい場所が復活し、市民のア

イデンティティそのものとなった。オルティージャに は近代都市とは違い、古代と繋がる神話、物語がある。 古代ギリシアの神話、愛の物語に包まれた象徴的な場 所だ。

日本にも古代と繋がる神話、物語がたくさんある。この内、日本遺産の和歌山県雑賀崎の和歌の浦(わかうら)は、万葉集に13首もうたわれている(「若の浦に 潮満ち来れば 潟をなみ 葦辺をさして 鶴(たづ)鳴き渡る」山部赤人=万葉集=)。7世紀中頃~8世紀中頃と考えられ、南イタリアのカンパニア州アマルフィ(Amalfi)海岸の歴史・文化より古い。瀬戸内芸術祭の旗揚げに瀬戸内海・地中海シンポジウム 2009年では、日本文学者の中西進先生やアマルフィの歴史家ジョセッペ・ガルガーノ氏らを招きシンポジウムを行った。

街全体でおもてなしするアルベルゴ・ディフーゾ

イタリア発のアルベルゴ・ディフーゾの取り組みとして、さきがけの矢掛町(岡山県小田郡)に加え、牛窓(岡山県瀬戸内市)、西大寺(岡山市東区)でも計画があると現地で伺った。空き家の再生のみならず、地域一体となって取り組んでおられることを、高く評価したい。

ローマ近郊のアルベルゴ・ディフーゾに宿泊したこ とがある。レセプションで受付を済ませ、街並みを紹 介されたのち、それぞれの宿泊施設に案内され、翌朝、 街のカフェで住民と一緒に朝食を取り、買い物をして 食事をつくった。住民の様な暮らしを体験できる上、 街全体がおもてなしをしてくれている印象を持った。 夕方には、住民の気軽なおしゃべりの輪に入れても らった。こうした演出が大切だ。アルベルゴ・ディフー ゾだが、そもそも日本の歴史的な町並みの中にはこう した宿泊場所がなく、昼間だけの滞在に留まっていた。 それを大きく変えつつある。住みながらサービスする 新たな手法に当たる。例えば、2階に住んでいる、オー ナーが観光案内をしてくれる、といったこともある。 路地など回遊性の楽しさなどのドラマがある。若い経 営者の思い切った企画や美味しい味、洒落たデザイン、 大テーブルでの食事、素敵な空間で食事を楽しむ歴史 的建造物の現代的活用、海の景観だけではなく、旧市 街の魅力を再発見するなど、各々の演出が驚くほど進 む。広場には賑わいが返ってきた。洒落た B&B 等が 増え、小さなチャペルがギャラリーになった。国内で も、尾道でも、歴史・建築・環境のストックを活かさ

れていた。NPO 尾道空き家再生プロジェクト(代表 豊田雅子) ゲストハウスに蘇ったガウディハウスがあ る。

歴史的空間の再評価と舟運ネットワークによる地域間連携

近代化を推進する価値観の中では、都市の坂道は不 便なもとだけ考えられ、丘や山が迫る斜面地は評価さ れなかった。しかし、入江に都市が発達し、斜面上の 複雑な高密都市は、現代人の感覚にはフィットするの だ。前述のアマルフィも、海洋都市国家であった中世 的な迷宮構造である。この斜面都市の構造は、瀬戸内 の都市の構造とよく似いていると考えられる。坂とパ ノラマが連続し、内部に豊かな空間隠れる。和歌山県 の雑賀崎(和歌の浦)は一歩先を行き、日本のアマル フィと地元の人が呼んでいる。アマルフィ海岸のポジ ターノと雑賀崎の和歌の浦は、地中海と瀬戸内の類似 性を挙げる例となっており、海集落内部の構成も似て いる。その条件とは、斜面都市の開発、雛壇状造成石 の産出、雛壇状の造成、段々畑の農地、田園などだ。

港の再評価で独自の文化の再発見もある。海沿いの 町の福山市鞆の浦は、重要伝統的建築物の調査は当初、 街中のみで行われていたが、その後、埋め立て架橋反 対のために、港の再評価を行ったところ、近世港町の 4つの要素全てがあった(常夜灯、雁木(がんぎ)、 波止場、焚場(たでば)等)ことが分かった。牛窓も 海の価値の発見(日本の地中海)の後に 酒造場など 町並みが残っていることから歴史的空間の再評価が続 いた。リノベーションを行い、若者が入るなどし、今 後は期待できる。

広島県尾道市生口島は、中世以来の舟運が栄え、江 戸時代には重要な商業港があたった。 塩田 (江戸時 代~)に加え、明治以後柑橘類の栽培が盛んになり、 大正時代には造船が盛んになり経済的に繁栄した。瀬 戸田ビエンナーレ(1989年~)では、島全体をエコ ミュージアムに見立て、日本一のレモンの産地も強調 した。この地を見守る向上寺の三重塔(1432年)は国 宝だ。地中海でも、レモンはリモンチェッロ(果樹酒) をきっかけに人気がある。手が掛かり効率の悪いレモ ン栽培だが、地中海のイメージに合い、人気が高まった。 南イタリアの漁村イスキア(カンパニア州ナポリ県) でも、舟運に加え、漁村にも特徴がある。カラフルな 外観に、1階は艇庫、外階段を使い2階以降に前庭の ある家が8軒程度ある。前庭を共有するコモンズで、 コミュニティが成り立っている。弓削島(愛媛県越智

郡上島町)には、漁村の中庭型住居があり、豊島(広 島県呉市) にも高密な漁村がある。こればかりではな い、瀬戸内と地中海に共通するのは、魚の種類が多く、 生物多様性に富んでいる点だ。エノガストロノミーア (お酒+食文化)において、瀬戸内は宝庫である。日 本のアマルフィを自負する雑賀崎では、ワークショッ プなどで漁業の再生を図り、漁師の子ども達が家業を 継ぐ傾向も一部にある。

更に、舟運による港町の発展にも注目したい。瀬戸 内海は、舟運ネットワークで港町が多く、遊郭文化も 見られた。大崎下島(広島県呉市)の港町御手洗(み たらい) は、江戸時代 西廻り航路や沖乗り航路の潮 待ち港として、北前船など廻船が寄港したため、遊廓 文化(4軒の待合茶屋による花街や「おちょろ船」) も生まれた。同様に、シチリアのエリチェの女神の神 殿跡、ヴィーナスの井戸高台エッジにそびえるノルマ ンの城など聖域へ至る道には、聖なる売春/娼婦街の 地名(Gerodule)が残る。こうした文化があり、地域 間も連携していた。

都市と農村繋ぐ連携・ネットワークの重要性

アーキペラゴ (「多島海 | や「群島、島々 | を表す) の瀬戸内海は、狭い範囲に沢山、個性豊かな島が集積、 繋がっている。島の多様性は地中海以上で背景には、 自然条件、歴史、文化風土、産業・経済基盤が異なる ことが挙げられる。都市と農村繋ぐ連携・ネットワー クの重要性が再評価されている今、陸の都市・背後の 農村、島々の相互を繋ぐことを重視したい。この際 に、テリトーリオ(地域の文化、歴史、環境、その他 の土地の農産物の価値を高め、都市と農村の新しい結 びつきを生む社会システム)として捉えることが大切 だ。直島から始まるベネッセの福武氏の構想力・実行 力が過疎の島を救おうとしている。建築・アートの力 で直島では、安藤忠雄のベネッセハウスミュージアム (1992)、「自然・建築・アートの共生」をコンセプト の地中美術館(2004)、家プロジェクト(漁師町の本 村地区に展開)、ANDO MUSEUM (本村地区の築100 年の木造民家に新しい命を吹き込む)が造られた。こ の他、犬島では、三分一博志の犬島精錬所美術、銅製 錬所の遺構を保存・再生した美術館「遺産、建築、アー ト、環境」による循環型社会をテーマとした。妹島和 世の犬島家プロジェクト (2010~) は、集落内に新旧 の融合をはかり、日常の美しい風景を描いた。豊島で は、西沢立衛の豊島美術館(アーティスト内藤礼とと

もに)がある。加えて、瀬戸内国際芸術祭は、アーキペラゴコンセプトに、自然と地域の風土を感じつつ、現代アートを楽しむことができる。島の住民(多くは高齢者)との交流は、世界にないもので、自然と対話しながら行っている。愛媛県今治市では、伊東豊雄建築ミュージアムや海辺の小学校をホテルに替え、農業で新たな産業も興した。

南イタリアの新しい動きとしてはアルベロベッロやチステルニーノなどイトリア地方では、地域の連携が始まっている。70年代にはチステルニーノは、過疎化が進む素朴な田舎町だった。ボルゴ(Borgo:ムラ的なまち)の良さが見直され、再評価されている。南イタリアのイトリア地方も小さな街同士が連携するようになった。このお陰で、最も美しい街に選出され、田園風景も非常に良くなった。菜園、牧畜(動物)、オリーブなど、伝統的な農業、畜産が新たな時代のニーズに合わせ、甦りを見せている。家族経営の農場の人々が誇りを持って案内し、歴史を語ってくれるのだ。大規模な農場建築がアグリトゥリズモとして甦り、田園に宿泊する貴重な経験を楽しめる。空間が大きく、食材が豊か、歴史が長いなど南イタリアの魅力があふれている。

私自身とイタリアとの関係は、70年代前半以後、建築からスタートし、歴史的都市の保存再生、そして80年代にテリトーリオ再評価へと研究対象を広げてきた。農業製品のマーケティングの専門家の木村純子氏

とともに、イタリアのテリトーリオの調査を進め、都市と農村の交流の中で、農業生産を考えねばならないことが分かった(参考図書『イタリアのテリトーリオ戦略』)。

本日のまとめ

瀬戸内にける海辺都市や港町の展望は以下の通り。 これまで、高度経済成長期に無視されてきた自然、歴 史、文化、人、暮らし全てが、地域の資産となり、住 民や市民の暮らしの場として魅力アップを図り、同時 に観光へもつなぐことができる。その際、都市のみに スポットを当てるのではなく、周辺の農村、田園、海 も含めた広がりの中で、アイデンティティを生み出す ことが大切だ。加えて、都市と農村の交流を甦らせね ばならない。キーワードを挙げると、食文化と連動さ せた「キロメトロ・ゼロの発想(生産者と消費者の距 離が近い)」、伝統とイノベーション(日本人が得意だ と外国人は評価する)、古さと新しさ、観光概念の多 様化(地元周辺からの訪問)、複合化、リピーター(多 様な企画のあるコンベンションシティ)、体験型(ワー クショップ、アートなど)、文化発信と連結連携、ネッ トワーク、コンソーシアム、水辺の建築、空間(おい しいものを素敵な空間で)、舟運の復活、都市間のネッ トワークだ。今後は、若い人からの評価、Uターン、 Iターンなどが重要で、瀬戸内にはこうした人材が集 まっていると考える。

第26回 EU 講座

「ドイツと日本 働き方の違いとは」

日独産業協会特別顧問 隅田 貫氏

第26回 EU 講座が10月29日(金)、岡山プラザホテルで開かれ、日独産業協会の隅田貫特別顧問が「ドイツで長く働いてみて」と題して講演した。岡山経済同友会(国際委員会)との共催で会員ら約40人が聞いた。

隅田氏は、東京銀行(現在の三菱 UFJ 銀行)勤務時代に10年以上にわたりドイツ で勤務、その後ドイツの老舗プライベート

バンク本社で唯一の日本人として勤務され、通算20年 にわたるドイツ勤務経験から得た体験を基に日独の働 き方の違いについて講演した。

ドイツは日本より働きがいを感じている人が多く生





産性が高いことをデータを示し説明。「ドイツの職場では自律より自立が重要とされる。自分の考えを持っているから同調圧力や忖度がなく、責任と役割が明確になり、力を発揮できる」と述べた。チームワークの

考え方にも触れ、「チームでワークすることを重んじるのが日本、チームがワークすることを重んじるのがドイツ」と指摘。「勝つためのチームであり、勝つことで初めて輪ができる。勝つためには各自の役割が明確になる」と話した。

また、ドイツ人は厳格で融通が利かないような印象

があるが、ドイツの憲法(基本法)を何度も改正している点を例に挙げ、「目的に応じて柔軟にルール変更をする。多様性も受容している」と話した。「日本人が生産性を高め、晴れ晴れと仕事をするためには"どう在りたいか"を自問自答するべきだ」と強調した。

第27回 EU 講座

「コロナ禍の航空事情について」

全日本空輸㈱取締役執行役員 宮川 純一郎 氏

第27回 EU 講座が 3 月30日 (水)、ANA クラウンプラザホテル岡山で開かれ、全日本空輸㈱の宮川純一郎取締役執行役員が『2022年の日欧航空事情―パンデミックを超え「こころの翼」で世界をつなぐ―』と題して講演した。会員ら約30人が聞いた。

宮川氏はコロナ禍とウクライナ情勢など を踏まえ、欧州の今と航空業界の現状を分かり易く解説した。

まず、ロシアのウクライナ侵攻による航空業界への影響について、「紛争当事国であるロシアの上空を飛行するのは危険性があり、保険も適用されない。緊急着陸した場合、修理や部品調達が困難になるなどのリスクもある」とし、ほとんどの飛行機がロシア上空を飛んでいない現状を世界地図上に示した。現在は、全日本空輸㈱(ANA)は韓国、中国、カザフスタンを経由する南回りルートを飛び、日本航空㈱(JAL)は北極海、アラスカを通る北回りルートを飛んでいる。

人の移動が制限されている一方、航空貨物輸送の需要は逼迫しており価格は高騰状況。5G、巣ごもり需要などを背景に電子部品や半導体関連の輸送が増大している状況を説明し、「ファイザー社製のコロナワ





クチンの日本向け輸送は全て ANA が手掛けている」 と述べた。「鮮度の高い」アパレル商品の航空輸送 (「ZARA モデル」)も注目されていることを紹介した。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各国が行っていた入国制限などが緩和に向かっていることを示し、今後について「状況が改善されるに従って、観光需要も戻ってくる。ゴールデンウイークのハワイなどを期待している。日本企業の海外出張も増えてきており、視察ツアーなども戻ってくるのではないか」と話した。

最後に今後の ANA グループのビジネス展開として、「MaaS (Mobility as a Service)」などへの取り組みを紹介した。

岡山 EU 協会よりお知らせ

岡山 EU 協会メールアドレスが変更になりました。

新しいメールアドレス

jimukyoku@okayama-eu.jp

岡山EU協会 事務局

〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15

岡山商工会議所ビル5階 (一社) 岡山経済同友会内

T E L: 086-222-0051

F A X: 086-222-3920

E-mail: jimukyoku@okayama-eu.jp

URL: http://okayama-eu.jp